発行／特別養護老人ホーム晃の園（偶数月発行）

第172号

晃の園だより

平成24年8月発行

一人で団子を作り続ける入居者様。その周りで作業の手を止め無邪気にポーズをとる職員たち。「この子たちは何をはしゃいでいるのかねぇ」入居者様のそんなつぶやきが聞こえてきそうです。とはいえ、この写真から受け取る感触は、温かくて柔らかくて何やら嬉しくなる…そんなプラスのイメージだから不思議です。

福祉の現場をサービス業として考えた時、入居者様への接し方はおのずと方向性が決まってきます。でも私たちが提供するのは『生活の場』。一般的なサービス業の接客形態とは違った視点をも求められます。毎日長い時間を共に過ごす私たちの『生活の場』では、一般的なサービス業のように一過性的のものではなく、もっと濃くて密な関係が成り立っているわけですから。（それだけに職員自身の持つ、一人の人間としての個性や雰囲気が、入居者様の生活に大きな影響を与える存在になっていたりもします）

『よりよい介護サービスの提供』を考える時、知識や技術や設備の他にも考えることは沢山ありそうです。

普段の生活の中で

特別なイベントでない普段の生活の風景です。こういった普段の生活の中での入居者様の笑顔こそがとても大事なものに思えます。

まだ暑くなる前のこと、お庭の草むしりをしました。入居者様は慣れた手付きでテキパキと作業を進めます。あっという間に綺麗にして下さいました。

今年も桃の実がなりました。最近みるみる色づいてきたので、入居者様と一緒に手の届く範囲を収穫してみることにしました。高い場所の実の収穫は後日にまわして、沢山収穫できました。少し固めの桃の実ですが、今年はどうやって食べるか皆で相談です。

紫陽花を見ると梅雨、向日葵を見れば夏。綺麗な花で季節を感じるって素敵なことですね。黄蘗ユニットの花は職員が持ち寄ったり、入居者様のご家族が持ち寄ってくださったりでいつも季節の花であふれています。皆さまの心遣いに感謝です。

以前は物干しがあった紫苑のテラスに、プランターがいくつか置かれました。これから少しずつ増やしていこうと思います。勿論、鉢植えは入居者様と一緒に楽しんでやりますよ。

とある午後、入居者様から「今日はコーヒーを飲める場所あるかしら？」との質問あり。すぐにさえずりユニットに連絡し入居者様と行って来ました。

到着すると「ようこそ、喫茶・さえずりへ」と、職員さんが声を掛けてくれましたよ。いつもはあまり会うことのない入居者様と「どこから来たですか？」「静岡はいいとこでしょ？」なんて会話をされたり、職員とお話されたり。いつもと違ったお茶の時間を楽しみました。

晃の園の秋まつり
10月6日(土)開催

ここに掲載した写真や記事は、晃の園ホームページの掲示板「旬のネタ」から抜粋したものです。掲示板「旬のネタ」には現場からのニュースが随時掲載されています。ここに掲載しきれなかったニュースや話題もたくさんありますので、ぜひご覧ください。

お問い合わせは
☎　054-270-1210
FAX　054-270-1253

インターネット　ホームページ
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.surugakai.net/hikari/
E メール hikarinosono@surugakai.net

〒421-1311　静岡市葵区富沢 1542-39　特別養護老人ホーム晃の園　広報委員会編集　平成 24 年 8 月発行

青竹樋の香りも高く

流しそうめんで涼を楽しむ

毎年恒例の流しそうめん。今年も管理人さんお手製の青竹樋は、晃の園のあちこちで盛大に涼を楽しませてくれました。その様子は…言葉よりも沢山の写真でご覧いただいた方が良さそう です。

中藁科小学校の総合学習

地元の中藁科小学校の４年生児童の皆さんが晃の園を訪問してくれました。総合学習として「福祉を学ぶ」という課題のもと、同じ地域にある晃の園を訪問先として選んでくれました。

難しいことはさておき、今回は生徒さんが司会進行をして、いくつかのグループに別れ、入居者様と交流をはかりました。カルタ遊びに輪なげやお手玉、紙芝居や折り紙など、いろんなグループで楽しくひと時を過ごさせてもらいました。

それにしても、みんなしっかりしてました。最初の挨拶や、生徒さん一人ずつの自己紹介から終わりの挨拶まで、よくある原稿を読むときの「棒読み的なイントネーション」はみじんも無く、また緊張で硬くなることもなく人前できちんと挨拶ができていましたよ。

また入居者様との触れ合いも、全然臆することなく明るく接してくれていました。とても素晴らしかったです。また何度かこういった訪問の機会があるとのこと。楽しみがまたひとつ増えました。

テレビ取材のお話　選ばれた理由

７月５日 21 時 54 分。晃の園がテレビ画面に登場しました。某テレビ局の「ふじのくにケンミン i」いう番組で、福祉の仕事のやりがいを伝えるテーマの回に、福祉の現場紹介の取材場所として晃の園が選ばれたのです。

そもそもこの話が晃の園に来たのは、晃の園のある主任さんが、自分が卒業した学校から依頼され、学生たちの前で話をしたのが発端でした。その時の内容が、偶然その場にいた関係者の方の印象に残り、その後テレビ局から番組取材先の紹介を相談された折、その方が晃の園を推薦してくれたそうです。ちょっと嬉しい繋がりの話でした。

介護手法の見直し継続中　設備の連携が鍵

梅雨の季節の終わり頃に、介護ベッドが１２台納品されました。今年の２月から始まり５か月かけ、計５５台の計画入替えがこれで完了です。

以前にもお伝えしたように、晃の園では介護手法の見直しが進められています。そしてその過程においては、知識と技術と設備、そして設備の組み合わせや連携の重要性があらためて確認されています。

入居者様と職員、双方にとっての「よりよい介護」を実現するために…。全体のイメージを把握した上で、その施策の一環としての介護ﾍﾞｯﾄﾞ設備の入替がひと段落しました。介護リフトも昨年に引き続き今期も追加で導入を進めます。勿論、設備を有効に活用するための技術研修も同時進行です。設備の見直しや充実と連携させた介護手法の見直しは、まだまだ続きます。